

令和7年渇水における早池峰ダムの効果

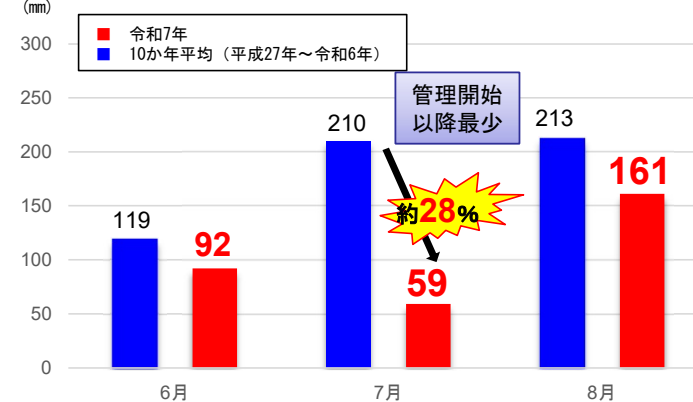
- ◆ 早池峰ダムでは、7月のダム流域平均雨量が管理開始(H13)以降最少となる「**59mm**」(平年の約**28%**)を記録し、近年で経験したことがないほどの少雨となった。
- ◆ 6月～9月において合計「**約506万立方メートル(岩手県庁60棟相当)**」の水量をダムから補給。
- ◆ 水道用水、工業用水、既得農業用水について、利用者と調整※を行いながら、最低限必要とする水量をダムから放流することにより、**渇水による各種用水への影響を低減**するとともに、稗貫川の**河川環境の維持に効果を発揮**した。
- ◆ 6月からの高温少雨によりダム貯水率が日々低下していきながら、関係者と密接な連携※を取りながらダムの運用を行った結果、稲の生育過程で最も水管理が重要となる出穂盛期(令和7年は8月1日前後)においても、ダムから下流域へ必要水量を補給した。

※早池峰ダム渇水調整連絡会議を計2回開催。ダム管理者から関係者へダムの状況と今後の見通しを情報提供するとともに、関係者間で水不足に関する危機感(認識)を共有。

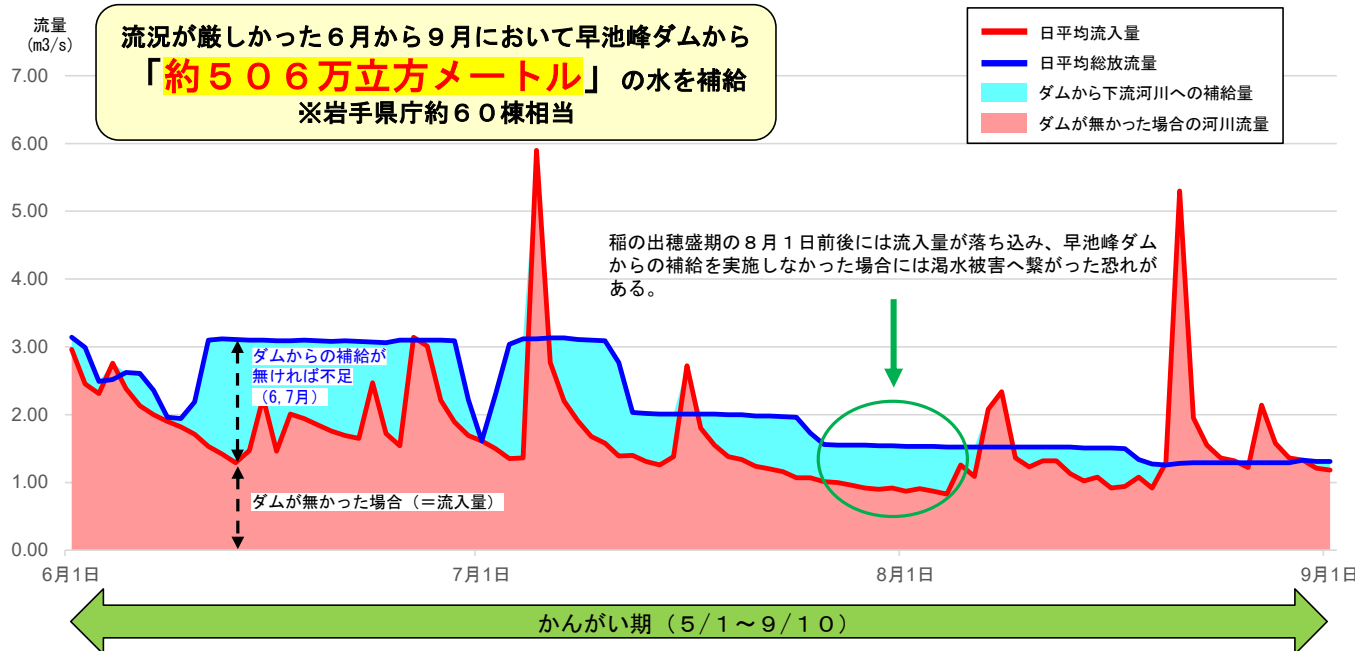
早池峰ダム流域図
(利水補給範囲)



早池峰ダム流域 月別降雨量



早池峰ダム 日平均流入量と放流量



【写真】渇水状況

8月18日撮影

撮影時貯水位およそ290.1m

